

(別添書類)

履 歴 書 (記 入 例)

文化財建造物修理主任技術者講習会(普通コース)
令和7年6月1日現在

ふりがな ○○○ ○○○
氏 名 ○○ ○○
生年月日 昭和○○年○○月○○日生 性別 男
現住所 ○○○○○○○○○○
電話番号 ○○○-○○○-○○○○○ その他連絡先 ○○○-○○○○-○○○○○(携帯電話)
○○@○○○○○(メールアドレス)
勤務先
住所 ○○○○○○○○○○
電話番号 ○○○-○○○-○○○○○(内線○○○)

学歴	年 月 日	[高等学校卒業から最終学歴まで 欄は適宜増減してください]
	平成○年○月○日	○○県立○○高等学校卒業
	平成○年○月○日	○○大学○○学部卒業
	平成○年○月○日	○○大学大学院○○専攻○○課程修了

職歴	年 月 日	[組織・機関, 配属先, 職名 欄は適宜増減してください]
	平成○年○月○日	○○に○○として採用
	平成○年○月○日	○○保存修理事務所 主任補佐
	平成○年○月○日	○○に昇任
		現在に至る

研修歴	年 月 日	[研修名(主催), 日数 欄は適宜増減してください]
	平成○年○月○日	○○研修(○○主催) ○日間

資格等	年 月 日	[資格名称(所管官庁等) 欄は適宜増減してください]
	平成○年○月○日	○○建築士 (国土交通省)
	平成○年○月○日	○○作業主任者 (厚生労働省)

(記入要領)

本履歴書は講習会の選考に使用するため、提出を求めるものです。本講習会の資料以外には使用いたしません。

※令和7年6月1日現在で記入すること。

※本調書は、本人が記入すること(すべてパソコン入力可)。

1. 氏名等 氏名, ふりがな, 生年月日, 性別を記入してください。
2. 現住所 現住所, 連絡先を記入してください。その他連絡先には携帯電話、メールアドレス等の連絡先を記入してください。
3. 勤務先 現在通勤している勤務先を記入してください。
4. 学歴 卒業した高等学校名等を記入してください。大学院修了者は、大学院名の他に卒業した大学名・学部名も記入してください。
5. 職歴 現在の職務に至るまでの職歴を正確に記入してください。
6. 研修歴 参加経験のある文化財建造物関連の研修を記入してください。
7. 資格等 職務に関係のある資格を記入してください。

(別添書類)

令和7年度文化財建造物主任技術者講習会(普通コース)

様式3「文化財建造物に係る業務歴」の記入要領

1. 氏名等

氏名, ふりがな, 生年月日を記入してください。

※和暦で記入してください。

2. 文化財建造物に係る業務に従事した期間

業務歴の審査を希望する期間を記してください。期間は年月日(H〇〇. 〇〇. 〇〇の形式)で記し, 経験年数を「年, 箇月」で記入してください。

経験月数は, 自動計算されます。

※業務歴の審査を希望する期間とは, 国指定文化財建造物等の保存修理における設計監理業務に従事していた期間を指します。

3. 業務歴の一覧表

文化財建造物に係る全ての業務を記してください。欄が不足する場合は適宜追加してください。

- ①**業務名** : 業務名称が不定の場合は, 業務内容がわかるよう具体的に記してください。
- ②**文化財の種別** : 文化財建造物の種別を記してください。(例: 国宝, 重要文化財, 都道府県指定有形文化財, 市町村指定有形文化財, 史跡・名勝, 登録有形文化財など)
※文化財の種別は修理時の種別を記してください。
- ③**文化財の所在地** : 都道府県名, 市町村名を記してください。
- ④**文化財の構造・形式** : 文化財の構造, 規模等の概要がわかるように記してください。
- ⑤**保存修理工事の内容** : 保存修理工事の内容を記してください(例: 解体修理, 半解体修理, 屋根葺替(屋根葺材), 部分修理, 塗装修理など)。複数棟にわたる場合は棟毎に記してください。
- ⑥**業務内容** : 当該業務において従事した業務の内容を記してください(例: 修理設計, 設計監理, 修理監理, 保存活用計画策定, 耐震診断など)。文化財保護行政実務(技術指導など)に従事した期間についても記してください。
- ⑦**業務における立場** : 当該業務において自らが果たした役割を記すこと(例: 工事主任, 工事主任補佐など)。文化財保護行政実務においては担当係などを記してください。
- ⑧**現場常駐** : 保存修理工事の現場に, 専ら常駐して携わった業務に「〇」を入力してください。
- ⑨**業務期間** : 当該業務の開始と終了の年月を記し, 期間の長さを月数で記してください。
- ⑩**期間における業務専念率** : 同期間に併行して複数の業務を行った場合は, 当該業務に専念した割合を百分率で示し, 専念月数を計算してください。
- ⑪**専念月数** : 集計欄の「月数(専念)」, 「年数(専念)」とともに自動計算されます。

(別添書類)

文化財建造物に係る業務歴(記入例)

文化財建造物修理主任技術者講習会(普通コース)

ふりがな	〇〇〇 〇〇〇
1. 氏名	〇〇 〇〇
生年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日生

令和7年6月1日現在

2. 文化財建造物に係る業務に従事した期間:	自	H20.4.1	至	R7.3.31	経験年数	17	年	0	箇月	経験月数	204
------------------------	---	---------	---	---------	------	----	---	---	----	------	-----

3. 業務歴 [欄が不足する場合は適宜挿入してください]

通番	① 業務名	② 文化財の種類別	③ 文化財の所在地	④ 文化財の構造・形式	⑤ 保存修理工事の内容	⑥ 業務内容	⑦ 業務における立場	⑧ 現場常駐	⑨業務期間			⑩ 期間における業務専念率	⑪ 専念月数
									開始(年.月)	終了(年.月)	月数		
1	(例)重要文化財〇〇神社本殿保存修理	重要文化財	〇〇県 〇〇〇市	木造 一間社 流造	解体修理	設計監理	主任補佐	○	H20.4	H20.12	9	100	9
2													0
3													0
4													0
5													0
6													0
7													0
8													0
9													0
10													0
11													0
12													0
												専念月数合計	9.0
												専念年数合計	0.8